

ジャック・シラク共和国大統領の寄稿

「サンクトペテルブルグ： 世界の安全保障と安定のための G8」

2006年7月13日

7月15日、ロシアが議長国をつとめる最初のG8サミットが開催されるサンクトペテルブルグに、私には、次におげる4つの目標をもって臨むものである。それらは、気候変動への対策に、豊かな国々と、新興諸国を再度取り組ませること。貧困と汎流行病を克服するための新しい資金調達方法の緊急性について、豊かな国々と新興諸国を説得すること。浮上を始めたこの時期に、アフリカへの支援すること。テロと大量破壊兵器対策に取り組むこと、特にイランと北朝鮮の問題に取り組むことである。なぜなら、我々は、グローバル化の機会を捉え、社会的、環境的に受け入れがたい行き過ぎを是正しながら、この人類の運命を変えて行く特別な世界の成長の時代を、最大限に利用すべきであると思っているからである。

フランスにとつて、対話と推進の非公式な枠組みであるG8の存在意義とは、我々に共通の課題への答えを、ともに考える場だということである。その手法というのは、各国指導者達の個人的な接触に基づいたものであり、責任の分かち合いという精神にのっとり、コンセンサスを模索することを目標としている。だからこそ、インド、中国、ブラジル又はメキシコといった、世界的規模の大きな課題を語るにあたって不可欠な新興諸国や、貧しい国々の代表にも門戸が開かれているのである。

*

エネルギーは、政治的な道具になってはならない。現在のような急速な経済的拡張時期においては、エネルギーは、持続可能な開発のために、世界的なパートナーシップの枠内で取り扱われるべきである。なぜなら、このまま放任してしまうと、化石燃料の消費の増加が、環境と気候に壊滅的な影響を与えることになるからである。

サンクトペテルブルグにおいて、私が望むことは、石油とガスの市場の機能を改善すること、生産国、消費国、経由国との間の対話を促進すること、ポスト石油の時代への移行を早めること、そして、環境的に責任ある開発ができるように新興諸国を支援すること、についての方策を立てることである。

原子力を含めた再生可能なエネルギー、代替エネルギーを、強く推進しなければならぬ。原子力エネルギーについては、最も厳しい安全と不拡散を確保した上で行われなければならない。そしてまた、省エネ政策も強く推進しなければならぬ。我々各国は、今から年末までに、これらの分野における野心的な国内目標をかかげるべきである。

地球的規模の脅威に対しては、世界的な答えが必要である。温暖化の問題は、分散的な手法や、一方的または部分的な声明を繰り返し出し出しても、解決することはできない。私は、国際的な気候変動対策スキームが弱まっていることを憂慮している。このような流れを変える必要がある。京都議定書の締約国であるG8のうち7カ国は、特別な責任を負っている。これらの国々は、ヨーロッパや、フランスが行っているように、そのコミットメントを尊重しているという模範を示すべきである。これらの国々が、2012年以降の道筋を示すべきである。人類に課せられている脅威に対処できるだけの野心的な措置を、我々は求めるものである。それは、米国を含む全てのG8国と、適切な方法によって、新興諸国をも含んだ、合意である。

我々が、今経験しつつある環境的な危機は、効率的で、調整された世界規模での答えを必要としている。私は、各国元首に対し、早急に国連環境機関の創設に取り組むことを訴えるものである。

*

毎年、エイズ、結核、そしてマラリアが、500万人の死因となっている。その大部分はアフリカで起こっており、何10万人という孤児達を貧困と暴力に向かわせているのである。これらの病気に打ち勝つことは出来るのである。G8は、それにコミットしたのである。その約束を果たさなければならぬ。その約束とは、2010年までに、全ての人々がエイズ治療を受けられること、ジェネリック薬に関するWTO協定の尊重、この3つの汎流行病に対する世界的な基金への資金調達である。フランスは、2007年に3億ユーロをこの基金に対し拠出する。

貧困対策として、世界の富の特別な成長から拠出される新しい資金調達方法が必要である。他の国々と共に、フランスは、航空チケットに課す連帯税を創設することによって、この方向へ向けて取り組んでいる。この資金は Unitaid を通じて、医薬品の購入にあてられる。これは、初めての試みである。この試みは、全ての人のための教育という、世界の優先的課題の分野にも広げなければならぬ。私は、サンクトペテルブルグに集まる各国首脳に、このアプローチの持つ現代性と効率性に気づかせたいと思っているのである。

これら汎流行病対策には、南の国々の保健システムの強化から始めなければならぬ。ヨーロッパの疾病保健は、1世紀前に設計されたものであるが、当時のヨーロッパの所得レベルは、現在のアフリカのレベルに匹敵するものであった。疾病保険は、社会的、経済的進歩のための決定的な要素となった。サンクトペテルブルグにおいて、私は、貧困国にこのようなシステムを創設するためのイニシアチブを、提案するつもりである。

世界は、まだ鳥インフルエンザの脅威にさらされている。万が一、人間の間での汎流行病になりうることを念頭に、予防措置をとり、行動しなければならぬ。そのために、衛生監視を強化し、国際社会が約束した20億ドルの支援の払い出しを進めることによって、準備態勢を整えなければならない。

*

他の年と同様に、サンクトペテルブルグで、私は、アフリカとのパートナーシップの必要性を訴えるつもりである。事態は動いている。平和、民主主義、今や、年5%を超える成長率などの進展が見られる。アフリカとの連帯は、道徳的な必要性である。また、これは、ヨーロッパや世界にとつて、人口という観点からも、取り組むべき課題でもある。尊厳のある未来をアフリカの若者達に与えるということ、それは、彼らが、暴力や原理主義に向かうことを回避させることになる。移住を選ばざるを得ないという状況に、代替案を与えることになる。我々全員に関わるこの問題に、ともに取り組むという目標のために、今週のラバト会議において、ヨーロッパとアフリカのパートナーシップが締結されたのである。

*

又このサミットでは、安全保障問題も取り扱われる。イランの核問題は、憂慮すべきである。ヨーロッパは、ロシア、米国、中国の支持を得て、外交的解決に取り組んでいる。我々は、イランに対し、寛容な提案をしている。イランが不拡散の約束を守るという条件のもとに、民間用の原子力エネルギーをイランが使用する権利を尊重するというものである。私は、イランの指導者達が、世界の平和と

安定そして、イラン自身のためにも、差し延べられた手を掴むことを願うものである。 サンクトペテルブルグのサミットでは、統一された断固としたメッセージが、イランに対して、発信されることになるであろう。

*

今回のロシアが議長国を務める初めてのサミットが、象徴するものを、私は、重要視している。 これは、1996年に。フランスのイニシアチブによって始まったプロセスの達成である。 プーチン大統領の招待に答えるということは、冷戦という古びた論理を脇において、平和と協力という未来を共に構築していくことである。 それは、ロシアが迎って来た今までの道のりと、ロシアがヨーロッパに根付いているということを認識することである。 サンクトペテルブルグで、G8サミットを開催することとは、ロシアが自らの役割を果たすことでもある。 なぜなら、共通の未来を語るということは、民主主義、法治国家、人権、自由といった、人類の尊厳の進展に寄与するあらゆる分かち合える価値について、語ることだからである。